

2024年度の再エネ出力制御の見通しについて

2024年9月18日
中国電力ネットワーク株式会社

1. 2024年度の再エネ出力制御の見通しについて（前提条件）

1

■ 2024年度における中国エリアの再エネ出力制御見通しについて、以下の条件で算定を実施。

項目	条件	備考
需要	2022年度の前日想定・実績データ※1 から至近の需要減（▲8%）を考慮	2022年度4～6月の 8～16時に対する 2024年度の需要減を考慮
連系線活用量※2	0%	2023年度4～6月、10～11月の 再エネ出力制御日時の 実績を考慮
太陽光・風力	2022年度の前日想定・実績データ※1	2024年度の設備量で補正
供給力 (揚水・ 火力・原子力)	2024年度の最新の補修計画を反映 優先給電ルールに基づく最低出力	島根原子力発電所2号機の 再稼働反映※3（2025年1月～）
その他	2024年度4～7月の出力制御量は実績値	—

※1 オフライン制御量算定に前日想定値、オンライン制御量算定に実績値を使用

※2 関西中国間連系線の運用容量から、関門連系線および本四連系線の運用容量を控除した値に対する当社活用量

※3 発電事業者のプレス発表に基づく



2. 2024年度の再エネ出力制御の見通しについて（算定結果）

2

■ 再エネ出力制御の見通しを算定した結果、出力制御率は3.84%程度となる見込み。

〈2024年度出力制御見通し〉

	出力制御率（制御電力量）〔太陽光・風力それぞれの出力制御率〕					
	旧ルール		新ルール	無制限・無補償 ルール	制御対象 設備計	全設備※2
	オフライン※1	オンライン				
2024年度 見込み	7.10% (2.15億kWh) 〔太陽光：8.28%〕 〔風力：1.47%〕	4.18% (0.76億kWh) 〔太陽光：4.18%〕 〔風力：－〕	4.18% (0.90億kWh) 〔太陽光：4.18%〕 〔風力：－〕	4.17% (0.36億kWh) 〔太陽光：4.18%〕 〔風力：1.26%〕	5.30% (4.17億kWh) 〔太陽光：5.58%〕 〔風力：1.47%〕	3.84% (3.62億kWh) 〔太陽光：3.98%〕 〔風力：1.47%〕
(参考) 2024年度 I/A全体オンライン化	3.79% (1.79億kWh) 〔太陽光：4.18%〕 〔風力：0.67%〕		4.18% (0.96億kWh) 〔太陽光：4.18%〕 〔風力：－〕	4.17% (0.36億kWh) 〔太陽光：4.18%〕 〔風力：0.67%〕	3.95% (3.11億kWh) 〔太陽光：4.18%〕 〔風力：0.67%〕	3.29% (3.11億kWh) 〔太陽光：3.45%〕 〔風力：0.67%〕

※1 オンライン代理制御分を含む。オンライン代理制御分は、オフラインの制御量相当(8～9時間停止)に換算した値。

※2 出力制御対象外設備を含む総発電量に対する実際の制御量の割合。

※3 四捨五入の関係で合計が一致しないことがある。

〈2024年度出力制御見通し（全設備）の内訳〉

	実績	見通し	
	4～7月	8～3月	年度合計
全設備	4.40% (1.60億kWh) 〔太陽光：4.48%〕 〔風力：2.13%〕	3.49% (2.02億kWh) 〔太陽光：3.65%〕 〔風力：1.25%〕	3.84% (3.62億kWh) 〔太陽光：3.98%〕 〔風力：1.47%〕



3. (参考) 2024年度の再エネ出力制御の見通しについて

3

2024年3月11日 第50回系統ワーキンググループ 中国電力NW資料（抜粋）

〈2024年度出力制御見通し〉

	出力制御率（制御電力量）〔太陽光・風力それぞれの出力制御率〕					
	旧ルール		新ルール	無制限・無補償 ルール	制御対象 設備計	全設備※2
	オフライン※1	オンライン				
2024年度 見込み	9.45% (3.37億kWh) 〔太陽光：10.71%〕 〔風力：1.93%〕	6.00% (1.04億kWh) 〔太陽光：6.00%〕 〔風力：－〕	6.34% (1.39億kWh) 〔太陽光：6.34%〕 〔風力：－〕	6.32% (0.46億kWh) 〔太陽光：6.34%〕 〔風力：2.02%〕	7.62% (6.25億kWh) 〔太陽光：8.00%〕 〔風力：1.93%〕	5.78% (5.65億kWh) 〔太陽光：5.99%〕 〔風力：1.93%〕
(参考) 2024年度 Iリア全体オンライン化	5.94% (3.05億kWh) 〔太陽光：6.51%〕 〔風力：0.75%〕		6.51% (1.51億kWh) 〔太陽光：6.51%〕 〔風力：－〕	6.48% (0.47億kWh) 〔太陽光：6.51%〕 〔風力：0.75%〕	6.15% (5.04億kWh) 〔太陽光：6.51%〕 〔風力：0.75%〕	5.15% (5.04億kWh) 〔太陽光：5.39%〕 〔風力：0.75%〕

※1 オンライン代理制御分を含む。オンライン代理制御分は、オフラインの制御量相当(8～9時間停止)に換算した値。

※2 出力制御対象外設備を含む総発電量に対する実際の制御量の割合。

※3 四捨五入の関係で合計が一致しないことがある。



4. 2024年度当初想定に対する増減分析

- 当初想定と比較し、連系線活用量の増加や、島根原子力発電所2号機の再稼働時期の変更等により、出力制御率が減少する見込み。

項目	内容
需要	4～6月の8～16時の実績は、当初想定と比較し、4%程度減少。 8月以降の見通しは、2022年度をベースに需要減少率8%を考慮して算定。
連系線活用量	4～6月の再エネ出力制御日時の実績は、当初想定と比較し、平均して28%程度増加。 8月以降の見通しは、当初想定値を採用したため、増減なし。
太陽光・風力	4～6月の太陽光の発電実績は、当初想定と比較し、13%程度減少。 8月以降の見通しは、当初想定値を採用したため、増減なし。
火力	4～6月の実績は、非調整電源の運用停止や最低出力の引下げに伴う出力減少により、平均して29万kW程度減少。 8月以降の見通しは、最新の作業停止計画を採用し、平均して4万kW程度増加。
揚水	4～6月の実績は、停止作業日数の減少により、揚水可能量が平均して1万kW程度増加。 8月以降の見通しは、最新の作業停止計画を採用し、揚水可能量が平均して1万kW程度減少。
原子力	島根原子力発電所2号機の再稼働時期を9月(当初想定)から1月へ変更※。



5. 電源（太陽光、風力）のオンライン化

5

- 旧ルールのおフライン事業者に対して、出力制御に係る問い合わせ時等、直接対話する機会を捉え、当社HPや国、太陽光・風力の発電事業者団体の公開資料を活用してオンライン化のメリットを説明し、出力制御機能付PCS等への切替の促進活動を継続して実施。

		2024年3月末	(参考)2023年9月末
太陽光	①オンライン化率 ((②+④)/(②+③+④))	80.3%	76.3%
	②新ルール・無制限無補償ルール, オンライン事業者	236.6万kW	219.6万kW
	③旧ルール, オフライン事業者	91.1万kW	106.1万kW
	④オンライン制御可能な旧ルール事業者	135.0万kW	121.9万kW
	⑤旧ルール事業者のオンライン切替率 (④/(③+④))	59.7%	53.5%
風力	⑥オンライン化率 ((⑦+⑨)/(⑦+⑧+⑨))	0.2%	0.2%
	⑦新ルール・無制限無補償ルール, オンライン事業者	0.06万kW	0.06万kW
	⑧旧ルール, オフライン事業者	34.8万kW	35.0万kW
	⑨オンライン制御可能な旧ルール事業者	-	-
	⑩旧ルール事業者のオンライン切替率 (⑨/(⑧+⑨))	0.0%	0.0%

(備考) 旧ルール高圧500kW以上・特別高圧の事業者、新ルール・無制限無補償ルール事業者（太陽光は10kW以上）について算定。
オンライン代理制御対象となる旧ルール（一部新ルール）500kW未満の太陽光は除く。



6. 再エネの導入状況について

■ 2011年度から2023年度にかけて、太陽光は39万kWから696万kW、風力は30万kWから35万kWへ増加。

設備量 [万kW]

【中国エリアの太陽光および風力の導入量】

